

鹿児島日英協会 ニュースレター
**The Japan British Society of
 Kagoshima Newsletter**

第 16 号

No.16 March 2022

会長あいさつ ～ニュースレター第16号発行に寄せて～

鹿児島日英協会 会長 島津 公保

3年目となったコロナ禍の中、会員の皆様は、如何お過ごしでしょうか。日頃から皆様には、当協会の運営に、様々なご支援をいただいておりますこと厚くお礼申し上げます。

コロナ禍が続くことから、当協会の活動も制約が出ておりますが、昨年12月には、県が主催した薩摩スチューデント派遣事業の参加高校生3名による体験報告会を開催することが出来ました。この事業は、英国へ生徒を派遣するものではありませんでしたが、コロナウイルス感染症の影響があったことから、今回はUCLによるウェブでのプログラムに参加したものでした。

参加者は、UCLの講義、与えられた課題に対する討議を経て、成果発表をそれぞれ行いましたが、全国から百数十名が参加する中、3名とも積極的にこれに参加し、UCLから高い評価を得ると同時に、自分たち自身で大きな成長があったと報告をしていました。

さて、私ども鹿児島日英協会は、平成4年に設立され、今年で30周年を迎えます。

鹿児島の西洋医学の祖といわれる英軍医ウィリアム・ウィリスの研究を深めておられた鹿児島大学の佐藤八郎先生が中心となり、元駐日英国大使サー・ヒュー・コータツツィ氏の助言をいただいで、鹿児島の医学界・経済界等の関係者が集まり発足したのが、鹿児島日英協会でした。

その後、2代目尾辻義人会長、3代目瀬戸山史郎会長、4代目酒瀬川純行会長と引き継がれ、精力的に英国との友好親善活動を行ってきました。特に、歴代の駐日英国大使には、度々ご来鹿頂き、鹿児島への理解を深めていただくと共に、様々な交流をさせていただきました。代々の会長をはじめとした、会員の皆様のご努力とご協力により、鹿児島日英協会として、活発な活動を続けてこられたことに、深く敬意を表するものです。

今年は30年目の節目となりますので、コロナ禍ではありますが、女性英国大使であるジュリア・ロングボトム氏をお呼びして、交流を深めたいと思っています。

今年も、制約のある中ではありますが、日英友好に資する活動を続けて参ります。皆様のご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

目次

- ① 令和3年度 第30回鹿児島日英協会総会報告 P.2
- 令和3年度 第1回理事会報告 P.2
- 令和3年度 第1回講演会の報告 P.2
- エッセイコンテスト・フォトコンテスト表彰式報告 P.2
- ② 第3回鹿児島とイギリス フォトコンテスト受賞作品紹介 P.3
- ③ 第5回エッセイコンテスト受賞作品紹介 P.3-6
- ④ R3年度薩摩スチューデント派遣事業報告会主催の報告 P.6-7
- ⑤ 今後のイベント予定 P.7
- ⑥ 協会ホームページ刷新の報告とバナー広告募集の予告 P.7
- ⑦ イギリスひとくちメモ P.8

① 令和3年度 第30回 鹿児島日英協会総会の報告

日時：令和3年10月30日（日）
会場：ホテルレクストン鹿児島

先日令和3年度第30回鹿児島日英協会総会が開催され、当協会の令和2年度（令和2年10月1日～令和3年9月30日）の事業報告及び決算（案）を審議、令和3年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日）の事業計画及び予算（案）を審議いただき、了承されました。

鹿児島日英協会第30回総会



（総会にて挨拶をする島津会長）

令和3年度 第1回 理事会の報告

日時：令和3年10月30日（日）
会場：ホテルレクストン鹿児島

第30回総会に先立ち令和3年度第1回鹿児島日英協会理事会が開催され、当協会の令和2年度（令和2年10月1日～令和3年9月30日）の事業報告及び決算（案）を審議、令和3年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日）の事業計画及び予算（案）を審議、承認されました。



（第1回理事会の様子）

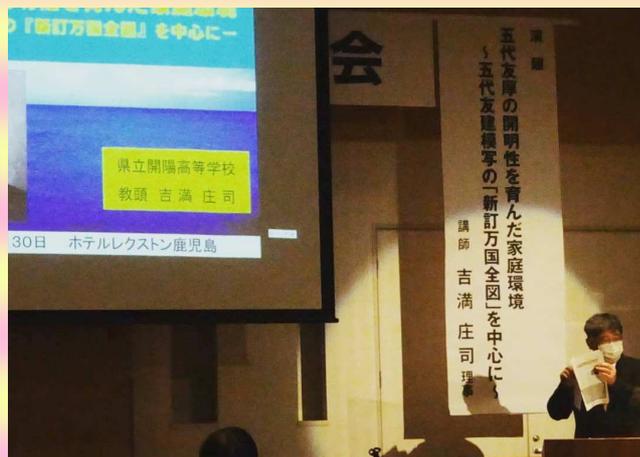
令和3年度 第1回 講演会の報告

日時：令和3年10月30日（日）
会場：ホテルレクストン鹿児島

第30回総会終了後、協会理事であり鹿児島県立開陽高校教頭の吉満庄司（よしみつしょうじ）先生による講演会を協会主催で実施いたしました。

演題：五代友厚の開明性を育んだ家庭環境
～五代友健模写の「新訂万国全図」を中心に～

熱気を帯びた講演に皆さん惹きつけられ質疑応答の場面でも意見が飛び交い大層盛り上がった講演会となりました。吉満先生、ご多忙の中ご講演賜りありがとうございました。



（熱意溢れるご講演中の吉満庄司先生）

エッセイコンテスト・フォトコンテスト表彰式の報告

理事会終了後、エッセイコンテスト表彰式とフォトコンテスト表彰式を行いました。写真家の中小路先生や古木副会長ならびに酒瀬川理事から講評を頂き、和やかな雰囲気の中滞りなく行われました。受賞されたみなさま誠にありがとうございます。

○ 鹿児島日英協会主催 第5回 エッセイコンテスト受賞者

〈英語の部〉・最優秀賞：山下 紗知 様

・優秀賞：樋元 壮 様 / 大山 心優 様

・奨励賞：森 晴子 様 / 立園 茉倫 様

〈日本語の部〉・最優秀賞：上釜 千佳 様 ・優秀賞：富永 朋実 様

・奨励賞：小川 敦也 様 / 小久保 向日葵 様 / 福島 和花子 様



（表彰式の様子）

○ 鹿児島日英協会 青年部主催 第3回 鹿児島とイギリス フォトコンテスト受賞者

・最優秀賞：有村 勇一 様 ・優秀賞：中村 美樹 様 ・入賞：今村 真理子 様

② 鹿児島日英協会青年部主催 第3回 鹿児島とイギリス フォトコンテスト
受賞作品の紹介（審査・講評：霧島市在住写真家 中小路靖先生）



← 最優秀賞 有村 勇一様 作 「光射す」

↓ 優秀賞 中村 美樹様 作 「Rose garden」 ↓



③ 第5回 鹿児島日英協会主催 エッセイコンテスト 受賞作品の紹介

英語の部 最優秀賞 受賞作品

鹿児島純心女子短期大学 山下 紗知 さん 作 "My Admiration for the UK"

July 28th, 2012. I was completely glued to the TV. The London Olympics opened on that day. It was scheduled to be on TV from 5 a.m. in Japan. I still remember I went to bed early to watch it live. Before the opening ceremony began, a cityscape camera shot was broadcasted for a while. Big Ben, London Eye, London Bridge and so on. I have seen them only in school textbooks or books, so I was captivated. In the opening ceremony, the history and culture of the UK was expressed and I was attracted to it. I really felt that I wanted to go there.

I had no alternative but to go to a high school which I didn't want to go to, so I was losing motivation for studying English. I was thinking that I could have led a full life in the UK if my parents had permitted it, and I could have spoken English well. However when I was a second-year high school student, I reached a turning point. I decided to go to Malaysia for a week on a Hioki city program. I was happy and I wanted to test my English ability.

Malaysia was a colony of some countries, including the UK, so Malaysians all over the country can speak English. It is said that the color combination of red, white and blue of the national flag of Malaysia comes from the color combination of the national flag of the UK. I was glad because I had found a relationship between UK and Malaysia.

It was my first experience of going to a foreign country, so I was looking forward to spending time there, but I experienced failure. I couldn't tell people what I wanted to say. I had learned English since I was 10 years old, but I couldn't communicate in English. I could understand why my parents had opposed me studying abroad.

When I came back to Japan, I studied English very hard because I was quite frustrated. I did my best with English study and I vowed to study abroad in the UK. I decided to enter Junshin Immaculate Heart College because it has a program of studying abroad in the UK.

I was startled and I was lost for words. The teacher told us that studying abroad was cancelled because of COVID-19. I thought I should do the best I can right now. Also, I thought I shouldn't lower my motivation regarding English. Therefore, I learned about buildings, culture, meals and so on in the UK through lessons and I studied of my own accord about the UK. Through this I found out that Edinburgh is a city which is registered as a World Heritage Site. It is a cityscape like I watch in a movie, with a lot of nature, and many historical buildings. Even just having seen it on a screen, I can enjoy a unique atmosphere in Edinburgh. When I researched about it for the first time, I thought I really want to go there because I was charmed by the streets and houses.

Now, I have studied very hard to enter college. After graduating from college, I'm hoping to study in the UK, majoring not in English but other subjects which will help me broaden my horizons and benefit my future career. I want to fulfill my goal of studying abroad in the UK. If I can do that, I want to enjoy Edinburgh to the fullest.

日本語の部 優秀賞受賞作品

鹿児島国際大学院 上釜 千佳 さん 作 「言葉ではなく『心』」

「どうしよう、私、英語が話せない。」

10年前の大学3年生、仕事でロンドンに行く父に便乗して、父娘2人での旅行で体感したこと、それは、高校までの英語の知識があっても、実際に会話ができるわけではない、会話と知識は別物だということです。

ロンドンに行ける喜びと、現地の人と会話ができるという期待を持ちワクワクだった旅行前日までとは打って変わり、「構文を知っているけど、話せない。」「単語を知っているけど、声が出ない。」惨めさと辛さ、無力感でいっぱい。そんな私を尻目に、楽しそうに単語やジェスチャーを使って現地の人とコミュニケーションをとっている父。打ちひしがれる私のことなど気にも留めません。追い打ちをかけるかのように、現地の人「若い」私に英語で話しかけてきます。父ではなく、私に。若者は全員、英語が話せるとでも思っているのでしょうか。焦りから冷や汗がとまりません。変な疲れを感じたロンドン到着1日目、ホテルに着いて真っ先にやったことは、日常会話例文をメモ用紙に書くことでした。父はそんな私を見て、「単語とジェスチャーで何とかなるから大丈夫だよ。」と一言。しかし、そんな言葉は耳に入りません。ついこの間まで英語を習っていた私にとって、それだけは絶対にやりたくありませんでした。次の日、思い切って話しかけてみました。もちろん、メモ用紙を使って。すると新たな問題が発生します。メモと会話が追いつかないのです。断固として「単語とジェスチャーで話すこと」だけはしないと決めていたのに、あっさりと始めることとなりました。やってみると、意外や意外。言いたいことが相手に伝わり、聞き取って返事も出来るのです。その嬉しさ、達成感といったら何とも言い難いものでした。正しい文章にして伝えることが会話だと、そんな考えに固執していた自分自身が恥ずかしくなりました。

さて、私たちのロンドン観光の楽しみ、お酒とミュージカル。ロンドンとえば、スコッチウイスキー、本場のミュージカルですが、この2つは私にとって幸せな思い出です。ホテルに着く度に、バーでスコッチウイスキーを一口、いや、二口、三口。劇場で休憩中に一口。もちろん、注文はメニュー表を手を持って「This please」と店員さんに単語とジェスチャー。「ウイスキーってこんなに飲みやすかったのかな」と思うくらいのまろやかさ、何杯でも飲めそうなお味。旅行から帰ってきたとき、体重が「あれっ」となったのは、言うまでもありません。そして、ミュージカル「オペラ座の怪人」。ここで私は初めての経験をすることになりました。「オペラ座の怪人」の内容はもちろん知っています。しかし、ここはイギリス。すべてが英語です。細かいところまで全部理解できるわけではありません。

それでも歌と劇場と、周りの雰囲気と、すべてに圧倒されたからなのでしょう。涙がとまらないのです。いわゆる泣くシーンではないのに、見終わった後ま

で、涙が盆れます。言葉ではない、心に訴えかける何かがこのミュージカルにはありました。こうして、「英語が話せない」からスタートした私と父のロンドン旅行。この旅行は、「人と人と繋げるものは心」だということを感じさせてくれるきっかけになりました。英語が話せなくても伝えたいという「思い」があれば、単語、ジェスチャーを使って人の心に届きます。言葉が分からなくても、「思い」が人の心を打ちます。昨今、コロナウイルスが蔓延し、人と会って関わるものが減ってきています。何が起こるか分からない時代、世界中の人々が手を取り合って生きていかなければなりません。寄り添おうとする心を持つこと、話す前に、まずはお互い理解し合おう、受け入れようとする心を持つことが、意思疎通を図る近道になると思います。

④ 鹿児島日英協会主催 薩摩スチューデント派遣事業報告会報告

令和3年度、鹿児島県が行った「薩摩スチューデント派遣事業」に参加した3名の高校生の報告会を行いました。今年は、コロナの影響で英国へ行くことは出来ず、日英約150名が参加したオンラインによる「UCL-Japan Youth Challenge 2021」に登録参加したものでした。

日時 令和3年12月19日（日）15：00 会場 ホテルレクストン鹿児島

発表者	志学館高等部	2年 東 澄玲	「三週間で出来た体験と成長」
	鶴丸高校	2年 堀之内 美音	優秀賞受賞 「自信をくれた一ヶ月」
	甲南高校	2年 今藤 彩佳	最優秀賞受賞 「目標の大切さ」

三人とも、初体験のオンラインによる日英合同の講義やグループワークに、当初は戸惑いながらも積極的に参加し、最後は、自身の成長を実感したとの素晴らしい発表がありました。

賞を受賞された堀之内さんと今藤さんは今年3月に、このプログラムの提携先である東京大学先端科学技術研究センター及び清水建設技術研究所にて参加報告と大学体験に参加の予定です。

県による「薩摩スチューデント派遣事業」の概要説明

● 目的

友好協定先の英国ロンドン・カムデン区にあるユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）がオンラインで実施する「UCL-Japan Youth Challenge 2021」に本県高校生を参加させることでグローバルに活躍する人材の育成を図る。

（参考）H30年度・R元年度の薩摩スチューデント派遣事業においては、英国に高校生を派遣し、友好協定を締結しているカムデン区・マンチェスター市との交流やロンドンにあるUCLで開催された「UCL-Japan Youth Challenge」に参加したが、2021年度は同プログラムがオンラインで実施されることとなった。

● 内容

UCL-Japan Youth Challenge 2021への参加及び活動報告

- ・ UCL講師陣による講義・ワークショップ
- ・ 専門の研究者等との意見交換
- ・ UCL Grand Challenge Workshop など

主催はUCL-Japan Youth Challenge実行委員会。講義はZoomを利用してオンライン形式で実施

＝下の写真は薩摩スチューデント派遣事業報告会の様子＝



＝掲載写真の紹介＝

- (上左) 県 PR 戦略部木場部長
- (上左から 2 枚目) 島津会長
- (上右から 2 枚目) 古木副会長
- (上右) 会場①
- (下左) 会場②
- 報告会最中の様子
- (下右) 会場③
- 報告会終了後の記念撮影



⑤ 今後のイベント予定 (コロナウイルス拡大防止のため、中止・延期となる事業があります。)

- | | | |
|----------|-----------------------------------|------------------|
| 1. 青年部主催 | 第3回 Pub Quiz | 開催時期未定 |
| 2. 協会主催 | 令和3年第2回理事会・講演会 | 2022年3月21日(月・祝) |
| | 講師 オフィスフィールドノート 代表 砂田 光紀 氏 | |
| | 演題: 「時の扉を開く鍵について～グラバーとの邂逅から読み解く～」 | |
| 3. 協会主催 | 令和4年度 第31回鹿児島日英協会総会・講演会・第1回理事会 | 2022年10月29日(土)予定 |
| 4. 協会主催 | 第6回エッセイコンテスト | 2022年7月末日締め切り |
| 5. 協会主査 | 協会創立30周年記念 講演会・交流会 | 開催時期未定 |
| 6. 協会主催 | イギリス視察ツアー(仮) | 実施時期未定 |

※コロナ禍ではありますが感染状況をみながら可能なイベントを考えたいと思います。ご提案、ご要望をお待ちしております。

⑥ 協会ホームページ(以下HP)刷新の報告とバナー広告募集の予告

2021年10月に鹿児島日英協会のHPを刷新いたしました。HPのURLとQRコードはそのままアクセスできます。より機能的で見やすく使い勝手のよいつくりになっておりますので是非アクセスしていただきご覧ください。

また、今後新HP上にてバナー広告を募集いたします。(現在準備中)世界中に発信できるチャンスとして企業様、団体様などはぜひご活用いただければ幸いです。ご期待ください。

⑦ イギリスひとくちメモ

“地名とイギリス”

名は体を表すというが、イギリスの地名もその地の地勢や歴史、文化を色濃く物語る。シェイクスピアの生誕地 Stratford-upon-Avon などを流れる Avon 川は、もともとケルト民族の言葉で「川」そのものを、イングランド最長の川 Thames は「(暗い)川」を、デボンの小さな観光の町 Branscombe 等の末尾の -combe は「谷間」を表す。

一方、-chester, -caster, -cester の付く地名は紀元 1～5 世初頭のローマ軍支配時代の名残りだ。Colchester, Manchester, Lancaster, Doncaster, Leicester, Cirencester など多くの地名がこの接尾辞を持つが、その地はローマ軍の「砦・野営」(castra) があった所である。

下ってアングロサクソン時代には各地に burh/burg 「防御された居住地・街」が作られ、Canterbury, Edinburgh, Peterborough, Salisbury 等数多の地名にその痕跡が残るが、彼らは定住を心掛けたため Burnham, Elmham, Hilton, Norton 等 -ham や -tun/ton (「農場・領地・村・町」) が末尾に付く村や町は枚挙にいとまがないほど多い。また、血族意識の強かった彼らが住んだところには地名の末尾 (あるいは中程に) に -ing (「...家の人々の意味」) が付く。Hastings, Reading, Birmingham などがその例だ。

その後北欧から侵略してきたバイキングと関連の深い地名も多い。Derby, Grimsby, Rugby など各地の地名に残る -by という接尾語は、古スカンジナビア語で「農場、あるいは村」を意味し、ネルソン提督の出身地 Burnham Thorpe や Scunthorpe の (-) thorp は「離れた小村」を意味する。

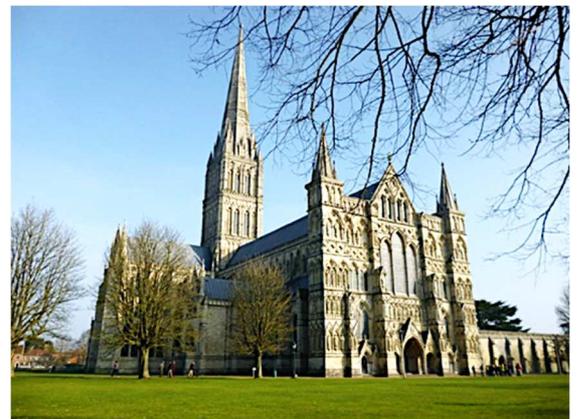
ノルマン人の征服後には、アングロサクソンに取って替わったフランス系貴族、地主の苗字を後ろに付けた地名も現れた。Kingston Lacy, Sutton Courtenay など各地に見られる二重地名などがそうだ。Beamish (beau + mes 'beautiful mansion') や Ridgmont (rouge + mont 'red hill') などフランス語そのものから来た地名もある。

宗教に関わる言葉が語頭に来る地名も多い。Crossby (十字架のある村)、Kirkby (教会のある村) などはキリスト教に関わる地名、キリスト教以前のものとしては北欧神話の主神 Woden に因んだ地名 Wednesbury などがある。

見知らぬ町や国など訪ねる時には、その地の自然、動植物などのことを調べておけば、楽しみがぐんと広がるが、イギリスを旅する時には、訪問地の地名の語源も事前に研究していくことをお勧めしたい。その土地の歴史や文化に対する理解、味わいがさらに深まること請け合いだ。



ローマ軍の castra があった
Colchester の Town Hall



アングロサクソン時代に burh のあった
Salisbury の大聖堂

文責：鹿児島日英協会理事
志學館大学名誉教授
酒瀬川 純行

★鹿児島日英協会 URL :

<http://jbsk.jp/>

★鹿児島日英協会青年部 Facebook :

Japan British Society of
Kagoshima Youth Division



【鹿児島日英協会事務局】

〒892-0871

鹿児島市吉野町9700-1 (株式会社島津興業内)

TEL : 099-247-7000 (代表)

FAX : 099-247-9539

E-mail : jbskagoshima@yahoo.co.jp